

入園要件・面接試験に関して

入園選考テストの要件は？

- 幼稚園は、定められた人員配置やカリキュラムに基づき集団社会教育を行う学校です。多くの子ども達の安全を守りつつ教育活動を円滑に行うために、入園に際しては、卒園時からさかのぼるカリキュラムに応じた育ちへの準備が必要になります。そのため幼稚園には、行動観察や面接といった入園選考の機会がありますが、この趣旨を正確にとらえて頂くとすると、「合否をつける」のではなく、「幼稚園の活動内容やカリキュラムがその子にとって最善であるかどうか」との様子をうかがう機会なのです。
- 効果的な成長を支えるのは、間違いなく「その子に応じた保育や教育の環境」を与えること。そして、より効果的な過程を経ることで、その後の成長へも影響し続けるものです。まだ早い段階での幼稚園就園は、周りのペースに乗れず、時に子どもにストレスを与えたり、段階的な育成に支障が出るばかりか、心身の成長を阻害する場合があります。また、時にリスクや危険を伴ったり、人員配置基準に応じたクラス運営に支障をきたしたり、他の子どもやご家庭に対しても影響をきたしてしまうものもあります。
 - ✦ 幼稚園児入園を迎えるにあたっては、ご家庭での保育・教育、また、保育施設での保育と教育により、集団教育への準備が適切だと思われる時期からの入園が適切です。
 - ✦ 年少入園時、子どもの特性や、ご家庭の方針など、見えないままに多数の園児が入園し一堂に会しての教育をスタートする事は、様々なリスクが生んでしまいます。
 - ✦ ご家庭や他の保育所からの入園は、入園以前の育ちの過程に対しても未知な部分が多く、効果的であり安全な幼児期の教育の推進に対し、支障が出てしまう事もありました。
 - 上記、なぜかという、将来からさかのぼって構成される年少プログラムの遂行が可能である事が必要となり、1対多人数での行動が可能である必要があります。
 - 準備段階を経ず、突然集団教育に入った場合、個別の援助を必要とする子どもが多ければ多いほど、様々なリスクが発生します。
 - →ひとりの教員がかかる時間が長ければ長いほど、他の子ども達への視線や関わりは制限されてしまい、カリキュラムの実行にも支障が出てしまうなど。

どのような点を見るの？

- 幼稚園では、年齢相応の育ちの上で、その次のステップである集団での教育の中身を策定し、カリキュラムを与えることを目的としています。
- その、2歳児～3歳児における保育指針の内容が、その子どもに備わっているかを見極める必要があります。
- そこでヒントとなるのが、「保育所保育指針」です。保育指針は、本来、家庭で行われている年齢相応の保育・教育を、保護者に代わって保育施設において行うべきものの指針です。いわば、逆に読み替えると、保育指針に記されていることが、年齢相応の育ちに応じた家庭での保育のヒントにあたるものと言えます。
- 是非、ご覧になって頂き、参考にして下さい。(裏面)



保育所保育指針

— おおむね2歳 —

歩く、走る、跳ぶなどの基本的な運動機能や、指先の機能が発達する。それに伴い、食事、衣類の着脱など身の回りのことを自分でしようとする。また、排泄の自立のための身体的機能も整ってくる。発声が明瞭になり、語彙も著しく増加し、自分の意志や欲求を言葉で表出できるようになる。行動範囲が広がり探索活動が盛んになる中、自我の育ちの表れとして、強く自己主張する姿が見られる。盛んに模倣し、物事間の共通性を見いだすことができるようになるとともに、象徴機能の発達により、大人と一緒に簡単なごっこ遊びを楽しむようになる。



— おおむね3歳 —

基本的な運動機能が伸び、それに伴い、食事、排泄、衣類の着脱などもほぼ自立できるようになる。話し言葉の基礎ができて、盛んに質問するなど知的興味や関心が高まる。自我がよりはっきりしてくるとともに、友達との関わりが多くなるが、実際には、同じ場所で同じような遊びをそれぞれが楽しんでいる平行遊びであることが多い。大人の行動や日常生活において経験したことをごっこ遊びに取り入れたり、象徴機能や観察力を発揮して、遊びの内容に発展性が見られるようになる。予想や意図、期待を持って行動できるようになる。



園歌
そのまは「の」
わにありあまう
あなた「わ」
きみ「ほ」
てを「あ」
すんで「こ」
みんな「た」
むじの「」

あま「ま」
げん「か」
あな「わ」
きみ「ほ」
から「き」
こも「き」
みらい「む」
むじの「」

だい「ふ」
みんな「た」
あな「わ」
きみ「ほ」
まな「あ」
まな「あ」
かん「あ」
むじの「」

